

本稿の目的は、余市宇宙記念館の展示や教育活動を通して、宇宙を伝える工夫や語られることと語られていないこと、余市宇宙記念館での経験が人々にどう影響するのか、そこにおける余市宇宙記念館の役割について明らかにすることである。

第1章では研究するに至った背景と上記の研究目的、本稿の構成を述べる。

第2章では事前調査として、宇宙の定義や余市宇宙記念館の基本情報、そして本研究のカギである宇宙教育について、JAXA 宇宙教育センターに代表される日本と NASA に代表されるアメリカを例にして整理する。

第3章の先行研究のレビューでは、宇宙を人文・社会科学的に捉えるために宇宙論 (cosmology) から始める。そしてそこから派生した本研究の理論的枠組みである宇宙人類学について説明し、宇宙進出の際の影響などを整理する。また、博物館展示・教育論の概念を概観して本研究の立ち位置と独自性を示す。

第4章では本研究を行った際の調査手法や調査の概要、倫理安全上の注意点について述べる。

第5章では余市宇宙記念館と余市町立黒川小学校での調査の結果から、余市宇宙記念館が展示を通して語ること、宇宙を身近に感じる工夫、宇宙を伝える行為などを利用者がどのように感じているのかを明らかにする。

第6章では、調査の結果から宇宙を伝える余市宇宙記念館の特徴を分析する。その上で、宇宙に関心を持つ中で果たす余市宇宙記念館の役割について考察する。

第7章では、結論として宇宙人類学や宇宙教育、博物館展示・教育論から余市宇宙記念館がどのような独自性を持っているのかを確認し、本研究の目的の問いへの答えを出す。

余市宇宙記念館では、身近な事象について本物を展示することで利用者の感情に大きなインパクトを残し、宇宙を身近に感じて記憶に残る工夫をしている。宇宙に関する展示は基本的に揃っているが、コンセプトとの相違から米ソ冷戦の宇宙開発競争は語られていない。そして「余市」という場所の特殊性を活かして、毛利衛氏の実物展示や映像資料などここでしかできない展示をしている。

余市町にとって特別な存在である毛利衛氏を通して、子どもたちをはじめとする利用者は宇宙に関心を広げていく。余市宇宙記念館はこの流れにおいてきっかけ作り、そして関心の深化という重要な役割を担っているのである。